



# 震災、台風で各地に 参加者にも大きな感銘

## (株)大商

パチンコ店用賞品の流通大手、(株)大商(大石正仁社長)は、昭和51年大阪府吹田市で設立、各地のパチンコ店のニーズを先取りした独自の品揃えや商品企画で全国に販路を広げ、今日にいたっています。

従業員48人、小ぶりな割には、年商51億円と、頑張っている会社です。

先代社長の國澤良幸氏は、日遊協設立初期から積極的に参加し、その発展に多大な貢献をされました。大商は、社会貢献活動にも、むろん熱心に取り組んでいます。東日本大震災に際しては、会社として義援金を拠出、赤十字社を通じて被災地に送りました。募金活動にも参加、社内にて募金箱を設け寄付を行いました。

(上) 東日本大震災のボランティア隊  
(下) 大和川クリーンアップ作戦



金銭だけではありません。被災地の石巻市には社員ボランティアを派遣し、被災者とともに後片付けなどの作業に汗を流しました。このボランティアに参加した大商本社の兼松大雄さんは、その感想をこう語ってくれました。

「私たちが活動した場所は津波によって大きな被害を受けた場所。見渡す限り瓦礫が山積みとなり、ここで人が生活していたとは、にわかに信じられない光景でした。しかし、瓦礫を片付けるにつれ、食器や写真など確かにここに人が住んでいた証が次々と出てきました。無残な光景はいまも忘れられません。胸の中に鉛のような重たい物が沈んでいくような感覚でした。ただ自分たちの活動が少しでも復興の手助けになると信じて、ひたすら手を動かしました。今でも多くの人が仮設住宅で暮らしていると聞きます。少しでも早く元の暮らしに戻れるように願うばかりです」

には、台風の被災地で、飲料水などを配りました。

### 清掃に汗、依存対策もPR

24年、25年は、大阪府と流城市町村が大々的に参加するイベント「大和川クリーンアップ作戦」などにも参加。河川敷の清掃に汗を流しています。参加した大商本社の松本新さんは、こう述べています。

「かつては、全国でもワーストランキング上位に挙げられていた大和川をきれいにする事によって、海の環境保全も図られるそうです。自然はみんなつながっているんですね。大変良いことをしたと思っています」

本年7月からは、悲惨な結果をもたらす、ホール駐車場での子ども車内置き去り防止活動

ボランティアの経験は、参加した社員の一人ひとりにも、大きな影響を与えたようです。こうした経験を基に、大商では、台風災害などにも、たびたび社員ボランティア隊を派遣しています。23年10月



車内放置事故防止のための告知シールを営業車両に▶



◀復興支援賞品の開発、販売も

「かつては、全国でもワーストランキング上位に挙げられていた大和川をきれいにする事によって、海の環境保全も図られるそうです。自然はみんなつながっているんですね。大変良いことをしたと思っています」

小さなことでも、できるところからはじめよう。ボランティア精神あふれる大商ならではの取り組みが、進んでいます。



nucmelクッキー▶